親子での触れ合い遊びを通して子どもの豊かな感性を育むために

調査結果から、幼稚園・こども園や家庭、地域において、触れ合い遊びを通して子どもの豊かな感性を育むために、以下の提言をする。



提言1　遊びや生活の中で、子どもたちが触れ合い遊びを楽しめるようにしよう。

- ▶ 子どもたちが触れ合い遊びに親しみ、十分に楽しさを味わえるような保育（援助や環境）の工夫をする。
- ▶ 園生活の中で、触れ合い遊びの機会を計画的、積極的につくり、親子での触れ合い遊びを楽しめるようにする。

- ● 遊びや生活の様々な場面で、日常的に触れ合い遊びに親しめるようにしよう。
- ● 興味をもって友達と繰り返し楽しめるように、様々な触れ合い遊びを取り入れよう。
- ● 親子での触れ合い遊びをする活動や行事を指導計画に位置付けよう。
- ● 触れ合い遊びの研修をし、実践に生かそう。

提言2　幼児期に触れ合い遊びをする大切さを保護者と共有し、「親子での触れ合い遊び」を楽しめるようにしよう。

- ▶ 家庭でできる様々な触れ合い遊びを保護者に伝え、親子での触れ合い遊びの機会を増やす。
- ▶ 保護者が、触れ合い遊びの楽しさや大切さを実感し、家庭で日常的に触れ合い遊びを楽しめるようにする。

- ● 園生活で子どもたちが楽しんでいる触れ合い遊びを、様々な場面で保護者に伝えよう。
- ● 親子で向かい合って関わる時間を楽しめるように、保育参加や行事の機会を活用し、家庭でできる様々な触れ合い遊びを、親子でやってみよう。

提言3　社会的課題を踏まえながら、地域とのつながりを活用し、「親子での触れ合い遊び」を積極的に楽しめるように発信しよう。

- ▶ 就労家庭が増え親子で向き合う時間が取りにくくなっている実情や、コロナ禍の影響による直接的な触れ合いの減少などの課題を踏まえ、親子で触れ合う機会を広げたり、意識を高めたりする。
- ▶ 地域の行事や活動、地域の人材を活用し、親子での触れ合い遊びを楽しめるように、情報を発信する。

- ● 現代の親子の実態や社会的な人間関係の希薄さなどに課題意識をもち、触れ合い遊びを通して、親子で触れ合うことの大切さや意義を感じられるようにしよう。
- ● 地域の人も巻き込み、地域全体でよりよい親子関係や家庭環境を支えられるように、触れ合い遊びに関する情報を発信しよう。

編集・執筆　特別事業委員

委員長	山口　晃司	中央区立豊海幼稚園
副委員長	浅沼美穂子	浦安市立神明認定こども園
委員	川嶋　佳恵	杉並区立高円寺北子供園
委員	宮山加奈子	浦安市立北部認定こども園
委員	穴原　江美	千代田区立いずみこども園
委員	小池　友美	中野区立かみさぎ幼稚園
委員	髙沢ゆみか	北区立じゅうじょうなかはら幼稚園
委員	戸頃　朗子	浦安市立青葉幼稚園
国公幼会長	高橋　慶子	目黒区立みどりがおかこども園
同副会長	森山　未来	渋谷区立山谷幼稚園
		渋谷区山谷かきのみ園
同事務局長	佐藤　　忍	国公幼事務局

令和6年度　全国キャンペーン・研修会ブロック担当

東北北海道	遠藤　嘉人	福島市立まつかわ幼稚園
関東甲信越	川﨑　暁子	台東区立育英幼稚園
東海北陸	藤井佐由美	岐阜市立加納幼稚園
近畿	厚地　律子	大阪市立真田山幼稚園
中国	田中　佳江	出雲市立平田幼稚園
四国	藤川しのぶ	鳴門市撫養幼稚園
九州	宮本　美香	天草市立亀場幼稚園

発行日　令和7年2月14日
編集発行　全国国公立幼稚園・こども園長会 会長　高橋　慶子
住所　〒113-0034 東京都文京区湯島 1-5-28 ナーベルお茶の水208
電話　03（5684）2240
FAX　03（5684）2174
E-mail　entyoukai@kokkoyo.com
ホームページ　https://kokkoyo.com

心も体もわくわく 親子で向かい合って楽しもう!






親子での触れ合い遊びを通して子どもの豊かな感性を育むために

会長　高橋　慶子

全国国公立幼稚園・こども園長会では、親子での触れ合い遊びを通して子どもの豊かな感性を育むための調査研究を進めています。この取り組みでは、「心も体もわくわく　親子で向かい合って楽しもう!」というスローガンを掲げ、保護者や教育関係者とその重要性を共有することを目指して全国各地でキャンペーン研修会を開催しました。

また、今年度は、親子での触れ合い遊びをする機会や実態について全国の保護者や保育者へのアンケート調査を実施しました。その結果、忙しい日常生活の中で親子が向き合う時間の確保が難しい現状や、触れ合い遊びの大切さが認識されている一方で、実践の機会が不足していることが分かりました。しかし同時に、家庭で簡単に取り入れられる遊びや園行事での実践が、親子の絆を深め、笑顔や信頼感を育む有効な方法であることも再確認されました。これらの成果と課題を踏まえ、親子が向かい合って触れ合い遊びをする意義やその楽しさをより多くの方々に伝えるためのリーフレットを作成いたしました。園と家庭、地域が一体となり、子どもたちの健やかな成長を支える取り組みが全国に広がることを願っています。

国公幼は、今後も、教育現場や地域社会と連携しながら、親子での触れ合い遊びを通じて子どもたちの豊かな未来を育むための活動を推進してまいります。皆様のご協力とご支援を、どうぞよろしくお願い申し上げます。

全国国公立幼稚園・こども園長会
特別事業委員会

事業名：親子での触れ合い遊びを通して子どもの豊かな感性を育むための調査研究

～心も体もわくわく　親子で向かい合って楽しもう！～

事業のねらい

親子での触れ合い遊びを楽しむきっかけをつくり、保護者にその大切さを伝える活動を進めることで、親子の触れ合いを広げ、触れ合い体験を豊かにしていくことをねらいとして、2年間の調査研究を行う。

1年次

- 保護者や保育者を対象に、親子での触れ合い遊びに関する実態調査を実施。
- 親子で触れ合って遊ぶことを楽しみながら、保護者・地域と共に学ぶ、幼児教育の重要性についての講演会等の全国キャンペーン・研修会の実施。
- 親子での触れ合い遊びを通して、子どもの豊かな感性を育み、親子のつながりを深めるための環境整備や実践化を図るためのリーフレットの作成。

2年次

- 親子で触れ合って遊ぶことの重要性の発信と、親子での触れ合い遊びのきっかけとなるような遊びの資料の作成。
- 親子の触れ合いを広げ、触れ合い体験を豊かにしていくよう、行動化を促す全国キャンペーン・研修会の実施。
- 自園の教育活動や親子での活動に活用できるようにする報告書の作成。

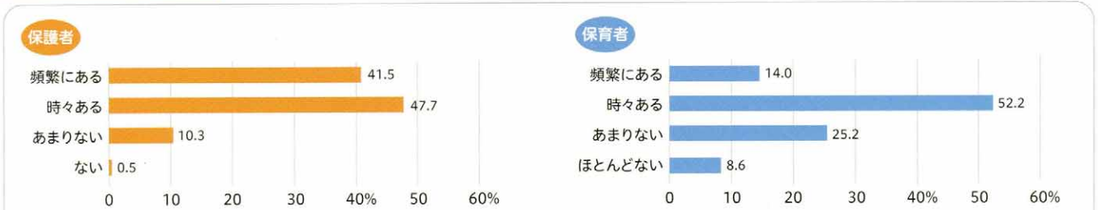
親子での触れ合い遊びに関する実態と意識についての調査

調査対象の幼稚園・こども園の学年
0歳児～5歳児
調査対象の保育者
0歳児～5歳児の学級担任とフリーの先生

調査対象園：全国の幼稚園・こども園から選定
回答者数：保護者6,184名 保育者963名
調査実施期間：令和6年10月

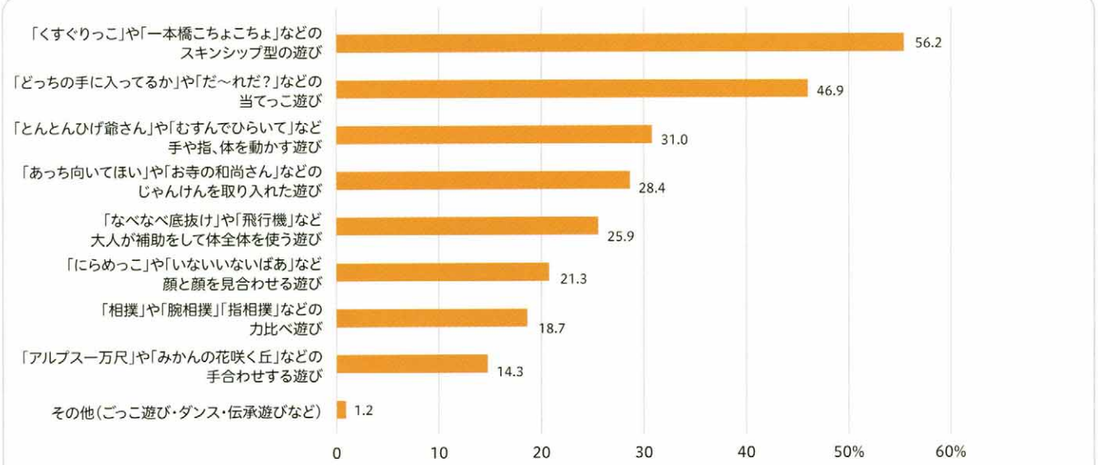
調査結果から触れ合い遊びに関する実態や、保護者や保育者の意識の傾向について以下のように読み取った。

保護者と保育者の実態　家庭や園で親子で向き合って触れ合い遊びをする機会があるか



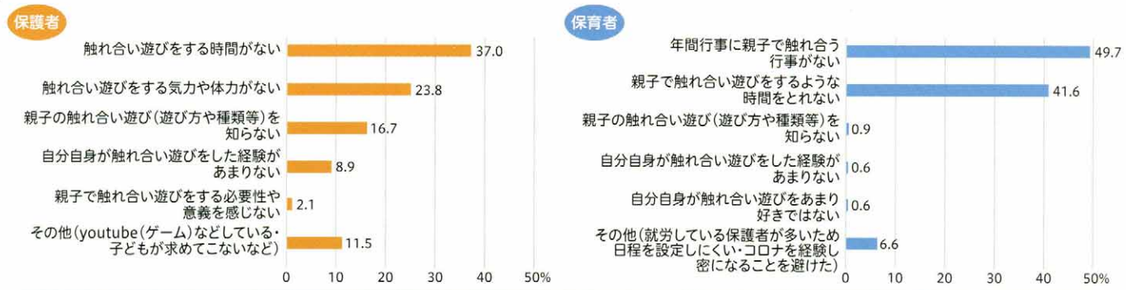
触れ合い遊びをする機会が「頻繁にある」「時々ある」という回答が保護者は、89.2%で、親子での触れ合い遊びを楽しんでいる家庭が多いことが伺える。一方で、保育者の回答は66.2%と開きがある。親子での触れ合い遊びをする機会が「あまりない」「ない」という回答は、保護者が約11%、保育者が約34%で、こちらも開きはあるものの、親子での触れ合い遊びをする機会が少ないと感じている園や家庭もいることは課題である

保護者の実態　どんな触れ合い遊びをしているか



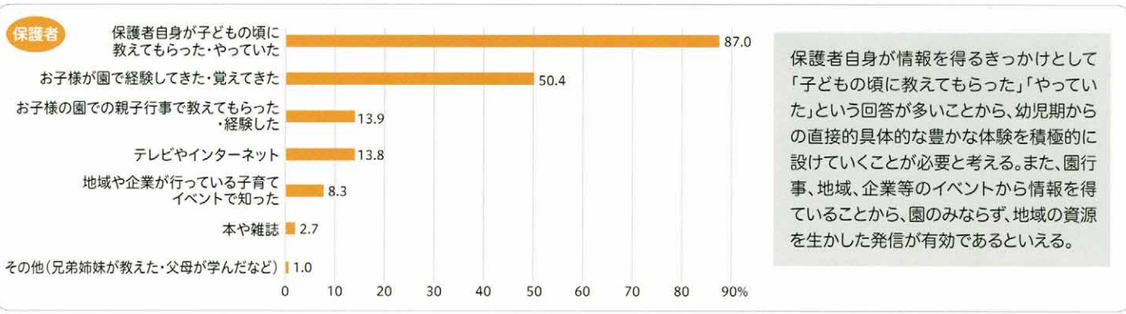
「くすぐりっこ」「どっちの手に入ってるか」など、保護者から子どもに投げ掛けるような触れ合い遊びが多く楽しまれている。気軽にしやすいと思われる。また、「とんとんひげ爺さん」「あっちむいてほい」など、よく知られていて保護者自身が子どもの頃に楽しんだであろう遊びもよく楽しまれている。「なべなべ底抜け」「相撲」などの体を動かす遊びも楽しまれている。

保護者と園の実態　触れ合い遊びをする機会がない理由



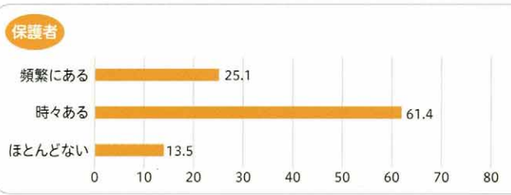
保護者は、親子での触れ合い遊びをする「時間がない」「気力や体力がない」という回答が比較的多い。就労家庭が増え、保護者の疲労感が感じられる。中には「触れ合い遊びを知らない」という保護者もいる。一方、園で親子での触れ合い遊びをする機会がないのは、「時間がない」という回答も多いが、最も多いのは「年間行事に親子で触れ合う行事がない」という回答である。園で触れ合い遊びをする機会を増やす余地はあると思われる。

保護者の実態　どこから情報を得ているか



保護者自身が情報を得るきっかけとして「子どもの頃に教えてもらった」「やっていた」という回答が多いことから、幼児期からの直接的具体的な豊かな体験を積極的に設けていくことが必要と考える。また、園行事、地域、企業等のイベントから情報を得ていることから、園のみならず、地域の資源を生かした発信が有効であるといえる。

保護者の実態　園からの発信や体験できる機会はあるか

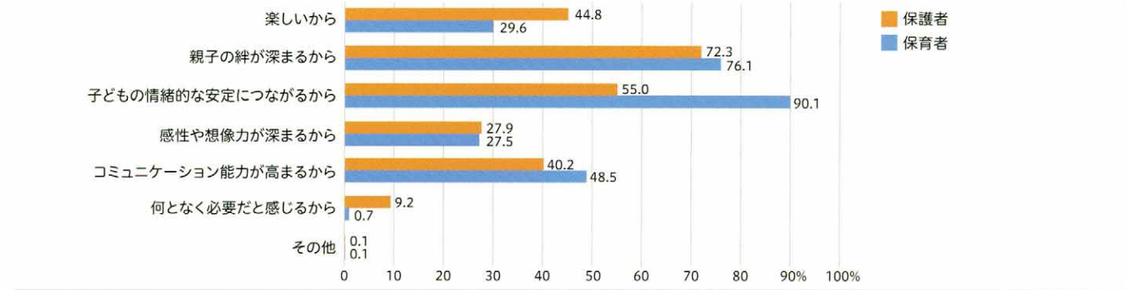


子どもが通っている園で、触れ合い遊びの機会や発信の機会が頻繁にある、時々あるという園が上位を占めていることから、園が積極的に触れ合い活動に取り組まれていることが分かる。しかし、「ほとんどない」という園が13.5%あることから、園や地域の実情を捉えながら、保護者と関わる様々な場面を活用した情報の発信や触れ合う機会を設ける等、園からの働きかけが必要になっている。

保護者と保育者の意識　成長の過程で親子で触れ合い遊びをする必要性や意義を感じているか

保護者　感じる 98.6%　感じない 1.4%　保育者　感じる 99.8%　感じない 0.2%

保護者と保育者の意識　触れ合い遊びが必要だと感じる理由



親子での触れ合い遊びをする必要性について保護者、保育者共に高い数値で必要性を感じていることがわかった。しかし実態では触れ合い遊びをする機会が「あまりない」「ない」という回答もあり、必要性を感じながらも実践に至らないといった実態が読み取れる。触れ合い遊びが必要と感じる理由に親子の絆の深まりや、情緒の安定、コミュニケーション能力の向上など、保護者、保育者共に感じていることが読み取れることから、親子での触れ合い遊びの意義や価値を保護者と保育者が共有し、教育課程や指導計画に位置付け、実践していくことが大切である。

親子での触れ合い遊びを通して、共に楽しむことで親子の

福島県国公立幼稚園・こども園長会

❶ 東北北海道ブロック

参加者　[計104名]
- 園児34名　● 保護者40名　● 未就園児10名
- 園長9名　● 教諭11名

実施日：令和6年11月23日（土）
会　場：福島市 福島トヨタクラウンアリーナ

親子で楽しもう！ ～ブレイキンでみんな笑顔～

受　付	開会式	講師のデモンストレーション ウォーミングアップ・リズムトレーニング	休憩	5種類の振り付け 全体での発表	閉会式
9:30	10:00	10:10	10:50	11:00	11:25　11:30

講師 令和4年度パリオリンピック強化選手　木村 竜也

決めポーズ



●ダンスのスタート！リズムに合わせて、タイミングよくポーズを決めた。

ステップが難しい



●4拍で右にステップ。次の4拍で左にステップ。先生のように足が動かなかった。

全体での発表



●5つの動きを教えてもらい、みんなの前で発表です。「緊張！」

参加者の声
- ●親子で一緒に体を動かすことや触れ合うことの大切さを、今回のダンス教室を通して改めて感じた。
- ●講師の先生も明るく子どもたちへの教え方が上手で、楽しめてダンスへの興味が築けたと感じた。
- ●子どものうちに芽生えた興味・関心を伸ばせる機会があってよかった。
- ●子どもだけでなく保護者も楽しくできた。

東京都国公立幼稚園・こども園長会

❷ 関東甲信越ブロック

参加者　[計302名]
- 園児96名　● 保護者112名　● 未就園児4名
- 園長39名　● 副園長10名　● 教諭21名
- 行政3名　● その他17名

実施日：令和6年9月23日（月）
会　場：台東区 台東リバーサイドスポーツセンター

心も体も健やかに！親子でふれあい運動遊び

受　付	挨　拶	ふれあい運動遊び	謝辞
9:45	10:00	10:30	11:30　11:35

講師 ライズチャレンジクラブ代表　坪田 潤一郎（ツボタマン）

ツボタマン登場！



●逆立ちで歩いたり、跳び箱でアクロバティックな動きをしたりするツボタマンに会場は大盛り上がり！

体を動かして遊ぼう



●体のトンネルくぐり、グーパー跳び、追いかけタッチなど、親子で思いきり体を動かして楽しんだ。

ぎゅっ



●楽しいダンスの最後に親子で抱きしめ合った。子どもも大人も幸せそうな笑顔だった。

参加者の声
- ●大人も子どもも楽しめる内容で、親子で楽しく体を動かすことができてとてもよい時間だった。
- ●久しぶりに子どもとじっくり遊ぶことができた。
- ●家でもできる遊びばかりだったので、家でも親子でやってみようと思った。
- ●広いスペースがなくても体を動かせること、体を動かすコツを知ることができてよかった。

岐阜県国公立幼稚園・こども園長会

❸ 東海北陸ブロック

参加者　[計100名]
- 園児31名　● 保護者43名　● 未就園児2名
- 園長3名　● 教諭8名　● 行政1名　● その他12名

実施日：令和6年10月12日（土）　会場：岐阜市 ながら川ふれあいの森

「親子で楽しむ昆虫の世界」 ～昆虫を通して自然を学ぼう～

受付	始まりの会	親子フィールドワーク	質問タイム	終わりの会
9:30	9:40	10:00	11:00	12:00　12:30

講師 名和昆虫研究所 名和昆虫博物館 館長　名和 哲夫

大自然の中で、親子で虫探しに夢中！



●館長さんより、虫を捕まえるコツや危険な生き物の対処法について教えてもらった。

捕まえた虫のことについて、名和館長に質問！保護者も夢中！



●捕った虫について、館長さんから、種類や名称、生態などをわかりやすく教えてもらうことで、子どもたちの興味が増し、親子で目を輝かせながら聞き入っていた。

参加者の声
- ●大変貴重な親子ふれあいの機会になった。虫を通して子どもの成長を実感することができた。
- ●ルリタテハ、キタキチョウ、メスグロヒョウモン、ヒメカマキリ、ハラビロカマキリ、エンマコオロギ、アキアカネなど、中には珍しい虫も捕まえることができ、館長さんのおかげで、虫の価値が分かった。
- ●捕った虫をどうするのかは、子どもの気持ちに寄り添うことが必要であることを学んだ。
- ●館長さんの詳しい説明もあり、子どもも大人も虫に、より興味をもつことができた。親が楽しむ姿を見せられたこともよかった。
- ●誰かと共有すること、一緒に心を動かすこと、“好き”のパワーはすごいなと改めて思った。

大阪府国公立幼稚園・こども園長会

❹ 近畿ブロック

参加者　[計255名]
- 園児43名　● 保護者48名　● 園長105名
- 教諭49名　● 小学校関係3名　● 行政6名　● その他1名

実施日：令和6年11月16日（土）
会　場：大阪市 大阪市立天王寺スポーツセンター

心も体もはずませて わくわくミャクミャク なにわっこ

受　付	開会式	心も体もはずませて遊ぼう！	休　憩	講演会	閉会式
13:00	13:30	13:45	14:15	14:30	15:05　15:15

講師 元大阪市立幼稚園・小学校 校園長　久野 伸夫

保護者の方と一緒に色々な遊具で遊ぼう







●音楽に合わせて楽しく体操をした後、落ちてくる新聞棒をキャッチしたり、新聞棒を飛び越えたり、布玉を頭に乗せたまま立ったり座ったり、投げたりなど、楽しく全身を使って遊んだ。
●布玉をバンダナに包んだ「バンダナ玉」は、指に挟んで掴むことができるため、子どもでも容易に遠くまで投げることができ、保護者の方と何度もキャッチボールに挑戦し、親子の触れ合いを深めた。

先生たちも遊びを体験





●参加者の先生方も、講師の先生に教えていただきながら、実際にバンダナ玉や新聞棒を投げる体験をした。体の動かし方、子どもがしたくなる働きかけのポイントなど、専門性を高めながら学ぶことができた。

参加者の声
- ●これまでは公園で子どもに「遊んでおいで」と見ているだけだったが、ちょっとしたことで触れ合って遊ぶことができることを知った。
- ●悔しがったり、喜んだりしている姿を見て、親子で向き合って遊ぶ機会は大切だと感じた。これからはできることを見つけて、一緒に体を動かして楽しみたいと思った。
- ●特別におもちゃを買うのではなく、日常生活にあるものを遊びの中に取り入れることや、どのように使ったら遊べるおもちゃになるのかを考えること、また、自身が楽しまないと子どもも楽しみを感じることができないことを体験することができた。

絆を深める 全国キャンペーン・研修会

総参加人数 1,366名

島根県国公立幼稚園・こども園長会

⑤ 中国ブロック

参加者 [計262名]
- 園児95名
- 保護者95名
- 園長42名
- 教諭23名
- 行政6名
- その他1名

実施日：令和6年11月9日(土)
会　場：出雲市 平田文化館プラタナスホール

親子で一緒に音楽表現を楽しもう！

受　付	開会式	音楽を聴いたり一緒に歌ったりする	休憩	「ブレーメンの音楽隊」の表現遊び	閉会式
8:45	9:30	10:00	10:30	10:40	11:20	11:30

講師 出雲フィルチェンバーアンサンブル

素敵な音楽を楽しもう



●綺麗な歌声や聞き覚えのある曲に子どもたちは喜んで聴き、弾んだ曲では体を動かしながら楽しんだ。

様々な楽器から違う音が聴こえるね



●いろいろな楽器から出る音が何の動物の鳴き声に聞こえるかステージと客席でのやり取りもあり、音楽や楽器に親しみをもった。

ブレーメンの音楽隊に参加しよう



●受付で配布された4色の手袋をつけ、ブレーメンの音楽隊に出てくるそれぞれの動物になって親子で一緒に音楽表現を楽しんだ。

参加者の声
- ●子どもとしっかり向き合いながら遊ぶことの重要さに気付いた。同じ音楽で一緒に体を使ったり、笑いあったりしながら楽しむことがとても嬉しく、子どもがとてもいい顔をしている様子を見て、幸せな気持ちになった。
- ●忙しい毎日の中で、今日のような感性を育む触れ合いを忘れないようにしたいと思った。
- ●歌も音楽もとても良かったが、先生方がされた泥棒や動物の表現もとても良かった。会場が一体となっていてよかった。

熊本県国公立幼稚園・こども園長会

⑦ 九州ブロック

参加者 [計123名]
- 園児34名
- 保護者34名
- 園長22名
- 主任3名
- 教諭12名
- 保育園関係2名
- 小中学校関係2名
- 行政11名
- その他3名

実施日：令和6年11月16日(土)
会　場：天草市 市民センター体育館

Let's 親子de コオーディネーション運動遊び

受付	開会式	親子で運動遊び	休憩	実践報告	指導助言	閉会式
9:00	9:20	9:40	10:50	11:00	11:20	11:50	12:00

指導助言 熊本県教育庁市町村教育局社会教育課審議員兼課長補佐　田原 里恵

親子deふれあい遊び



●親子でビューンは2園で恒例の親子体操である。
●道具を使わずに気軽にできる親子遊びと風船でできる遊びを紹介した。

親子deフープ&ジャンプ



●色々な高さや幅の箱や段ボールを、親子でタイミングを合わせてジャンプしながら進む。
●新聞紙フープで交互にジャンプをしたり、くねくね縄を親子で跳んだりしてチャレンジする姿も見られた。

親子deマット&タオル



●家庭にもあるバスタオルでできる遊びを紹介。ひっぱる、つかまる、転がる、ぶら下がるなど、いろいろな遊びを楽しむ。
●マットの上ではペンギン歩きをした。
●一番人気は「魔法のじゅうたん」

親子deボール遊び



●ボールの下をタイミングを合わせて通り抜けるバウンドスルー。
●新聞紙バットで風船を打つ遊びは、保護者が投げ方を工夫し、トライ&エラーで楽しんでいた。

参加者の声
- ●親子で楽しく遊びながら多くの体験ができ、家庭での遊びにつながり非認知能力も高まることが分かった。
- ●身近にあるものを使って運動遊びや触れ合い遊びが出来るからこそ家でも継続して遊ぶことができる。とても勉強になった。
- ●特別な準備は無くできる手軽さがとても魅力的な活動だった。
- ●親子の触れ合い遊びを通して、子どもの能力を引き出すだけでなく、親子の愛情も高めることができたと感じた。

徳島県国公立幼稚園・こども園教育研究会

⑥ 四国ブロック

参加者 [計220名]
- 園児59名
- 保護者71名
- 未就園児17名
- 園長4名
- 教諭32名
- 行政5名
- その他32名

実施日：令和6年11月9日(土)　会場：鳴門市 鳴門市第一幼稚園

心も体もワクワク！親子で一緒に楽しもう

受　付	開会行事	親子触れ合い体操	会場準備・受付	親子触れ合い遊び(遊びコーナー) パネル展・幼稚園職員によるオペレッタなど	閉会行事
9:00	9:30	9:50	10:20	10:40	12:00	12:10

講師 鳴門教育大学 教授　湯口 雅史

親子触れ合い体操



●講師より、気軽に親子で触れ合ったり一緒に体を動かしたりして楽しむ遊びを教えてもらった。

幼稚園職員によるオペレッタ



●幼稚園の先生による「おむすびころりん」のオペレッタを親子で楽しんだ。

いろいろな遊びコーナーで親子触れ合い遊び





●「さかなつり」「缶バッジづくり」「ボール投げ」など5つの遊びコーナーで、親子で一緒に挑戦したり楽しんだりしながら遊んだ。どのコーナーでも楽しそうな歓声や笑顔が見られた。

参加者の声
- ●幼稚園児にちょうど良い遊びばかりで、先生方さすがだなぁと思った。子どもがとても楽しんでいるのを見て、来てよかったと感じた。ありがたい場である。
- ●子どもとしっかりと向き合って遊ぶことがこんなに楽しいのだと思い、幸せな時間だった。
- ●体操や先生のオペレッタと普段経験できないことが体験できとてもよかった。遊びも、子どもたちもとても楽しんでいた。
- ●なかなか親子で一緒に体を動かして遊ぶことも少なく、親にとってもいい時間だった。

全国キャンペーン・研修会の成果と課題

研修会では、体を動かす活動や、音楽や自然に関わる活動を通した「親子での触れ合い遊び」をする中で、親子で一緒に体と体を触れ合わせながら時間を共にし、互いに笑顔や楽しい感情を共有する体験をした。研修会を通した成果や課題は、以下のものである。



行動化を促すためのキャラクター
「チャレンジくん」

成　果

保護者は・・・
- ●広いスペースが無くても親子で触れ合って遊べることや触れ合い遊びの楽しみ方を知ることができ、家でもやってみようと思った。
- ●親子一緒に触れ合い遊びを体験をすることで、表情が和らぎ、気持ちが開放的になることを感じた。
- ●子どもとしっかり向き合いながら遊ぶことの楽しさや面白さを実感し、その重要さに気付くことができた。

保育者は・・・
- ●「ふれあい」の意味を改めて感じ、「園が発信して家庭につなぐ」ということを具体的に感じる時間となった。
- ●親子で一緒にいろいろな遊びにチャレンジできる場の工夫、先生方の言葉がけや雰囲気作りなどとても勉強になった。
- ●身体だけで楽しめ、その場で簡単にできる触れ合い遊びは、幼稚園・こども園・家庭等どこでも取り入れやすい活動であるということが分かった

今後の課題

- ●園が親子での触れ合い遊びをする意義や必要性の発信を段階的に行い、職員も保護者もその重要性を理解して、親子での触れ合い遊びに取り組むことでその効果を高めていけるようにする。
- ●このような研修会や園の行事等を通して、親子で向かい合ってする触れ合い遊びの情報を発信することで、家庭でも日常的に親子で向かい合ってする触れ合い遊びが継続的に行われるようにしていく。